

令和8年度

高川原小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 自分で考え、判断し、主体的に学習に取り組む児童の育成
- ポジティブな行動支援を取り入れた授業の実践

校長

齋藤 弘人

学力向上推進員

平岡 香織

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字・計算など、与えられた課題には真面目に取り組むことができる。 ○教科学習や読み聞かせ等、言葉を大切にしたり取り組みを継続することで、語彙が増えつつある。 ●身に付けた知識・技能の定着や生活場面での活用については個人差が大きい。	・既習の文字や漢字の読み書き、また計算の仕方の大体を身に付けることができる。(学校アンケート80%以上) ・身についた個別の技能について、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・練習問題に取り組む時間を確保するとともに、短時間にできるマス計算やミニ漢字テスト等に継続的に取り組む。 ・前学年で学習した内容や広い範囲から出題する等、定着を図るための工夫をする。 ・全校で統一した「板書とノートの型」による指導を徹底し、指導が自ら情報を整理し、視覚的に理解できるようにする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達の考えを参考に、自分の意見をもつ姿勢が少しずつ育ってきている。 ●自分の考えを自分の言葉で分かりやすくまとめたり、伝えたりする力に課題がある。	・聞いたことや伝えたいこと・考えたことを、自分の言葉や図・表などを使ってまとめたり、表現したりできる。(学校アンケート70%以上)	・思考過程を分かりやすく表現しているノートの例を具体的に共有・可視化することで、児童の表現の質を高める。 ・算数科を中心に「つかむ・考える・話し合う・振り返る」という学習過程を各教科で意識的に取り入れる。 ・教育活動全体で言語活動を工夫・充実させ、児童の表現力・説明力の向上を図る。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題を自分事として捉え、自力解決に取り組む習慣が定着しつつあり、少人数の話し合いには、進んで参加しようとする姿が見られる。 ●全体で考えを交流する場では、進んで発表する児童が固定化されやすい。	・各教科の学習に意欲的に取り組み、進んで自分の意見や考えを伝えようとしている。(学校アンケート80%以上)	・問題提示の工夫や児童の問いを生かしたためあてづくりで、問題解決への意欲を高める。 ・自力解決から少人数のペア学習、全体共有へとつなぐ過程を日常化し、児童が自信をもって自分の考えを表現し、互いに学び合える場を構築する。 ・「分からない」や「誤答」を学びを深めるきっかけとして価値づける言葉かけや問いかけを工夫する。			